

資金難の經濟



同和鑛業株式會社副社長

岸 道 三

資金難は一昨年春の下ツジ・ライン開始以後の現象であるが、それにしても昨年六月朝鮮動亂勃發以後は月一億ドルを超えるに至つた輸出の増進と、一年間三億一千万ドルの特需の出現で動亂景氣に置替えられたかに見えた。しかるに三月以後の反動は再び、以前にもまして資金難の苦しさを身にしみて感ずるようである。巨額の租税徴收とユーザンス期限到来による支拂の増加は金融を強く壓迫し、銀行貸出は膨脹し、日銀貸出も二千億圓に達した。しかも當局はインフレの再發を警戒して貸出の抑制を要請するので、金融は極度に逼迫をつづけている。七月九月の第二四半期においてもなお外爲會計の資金受入はふえ、税金の自然増収も多いので七、八百億圓の財政資金の引揚が行われるようである。長期の事業資金の調達も低調であつて、株式、社債による資金調達は一昨年度の千五十六億圓に對し、昨年度は八百八億圓に減じ、今年度の豫定九百五十億圓は相當に困難なように思われる。現在の資金難は恐慌的である。

考えて見ると、現在の資金供給は正に限度にきている。資金供給の内容について大口貸出偏重等の是正すべき點もあるが、資金量總額の乏しいことも事實である。日銀貸出が二千億圓にもなつてゐることによつても明かであるように、市中銀行の貸出はオーバー・ローンとなつており、相當額の兩建て預金で帳簿は扮飾されている。これは結局資本蓄積なく、資金が集まらなくて貸出をしたことを示すものである。

そこで現在の銀行資金をもつと効率的に動かすことを工夫することも必要ではあるが、ここに至ると資本蓄積を強力に推進することが基本的に必要である。資本蓄積は個々の企業體がやるべきことで、糸へん金へんの前期の莫大な儲けは享樂すべきものでなく、弱つてゐる資本を強化し蓄積すべきものである。自己資本に數倍、數十倍の外部資本はこの際なるべく落すべきであり、現在價格で資産の數十倍再評價をしても、二割三割の配當が續けられるようにすべきである。戦後苦しい段階に一時銀行その他から多額の資金供給を仰いだのはやむを得ないが、いつまでもこれに依頼すべきではない。政府の租税政策も資本蓄積を強化する方向に舵をとるべきである。原料輸入について政府の指導が煽動になつたのはよくなかつたが、糸へん會社が先高を見越して腹一杯頼張り、國際市場の行詰りにぶつつけて今さら資金難の怨言をいうのは日本の大事業として好感のもてないのが當然ではないか。これはひと事ではない。われわれ鑛山業者としても反省すべきよい教訓である。

日本鑛業協會誌(第四卷第八號)

八月號 目次

▽卷頭言 資金難の經濟……………岸 道 三……………一	☆我が國の鑛業と 減耗控除制度……………田村茂利……………二
☆カナダの フローズリツド焙燒爐……………角田資敏……………二	☆我國における 銅の需要趨勢について……………渡部亮……………二〇
☆最近三期間の金屬鑛業會社の 業態分析について……………二六	▽月間の動き……………三〇
▽鑛山の科學管理 科學的管理と安全……………鹽山寬美……………三三	▽協會だより……………三五
▽ニュース……………三五	▽資料……………三六

【表紙寫眞】 神岡鑛業日比製鍊所のアンローダー